

令和2年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,502	8,846	4,504	4,342	△ 12	△ 17
2 千 石	4,031	6,815	3,424	3,391	0	△ 18
3 内 山	5,705	7,885	4,166	3,719	△ 3	2
4 大 和	3,446	6,733	3,314	3,419	△ 4	△ 16
5 上 野	7,347	15,431	7,671	7,760	△ 9	6
6 高 見	7,361	13,462	6,434	7,028	△ 6	△ 19
7 春 岡	6,920	10,940	5,756	5,184	5	14
8 田 代	11,559	22,093	10,636	11,457	△ 22	△ 27
9 東 山	10,467	19,655	9,702	9,953	△ 2	△ 12
10 見 付	4,409	8,099	4,108	3,991	△ 15	△ 12
11 星 ケ 丘	3,520	6,898	3,123	3,775	△ 2	8
12 自由 ケ 丘	3,508	7,133	3,234	3,899	△ 4	△ 3
13 富士見台	6,441	15,226	7,088	8,138	△ 15	△ 37
14 宮 根	3,849	8,196	3,908	4,288	8	△ 5
15 千代田橋	3,704	8,465	3,969	4,496	9	23
千 種 区 計	87,769	165,877	81,037	84,840	△ 72	△ 113
H31.1.1	87,293	165,935	81,100	84,835	△ 83	△ 124
対 前 年 比	476	△ 58	△ 63	5	11	11
名 古 屋 市	1,119,906	2,328,653	1,149,975	1,178,678	277	△ 193
愛 知 県 (R1.12.1)	3,245,379	7,554,721	3,781,159	3,773,562	1,034	△ 681

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	104	133	△ 29	800	884	△ 84

【参考】

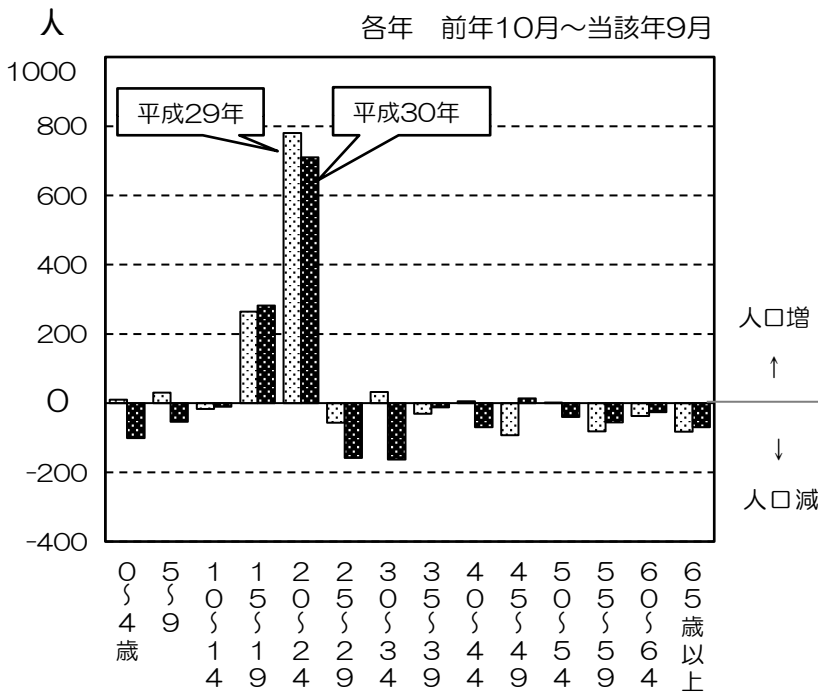
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1:年齢5歳階級別社会増減数（平成29年と平成30年の比較）

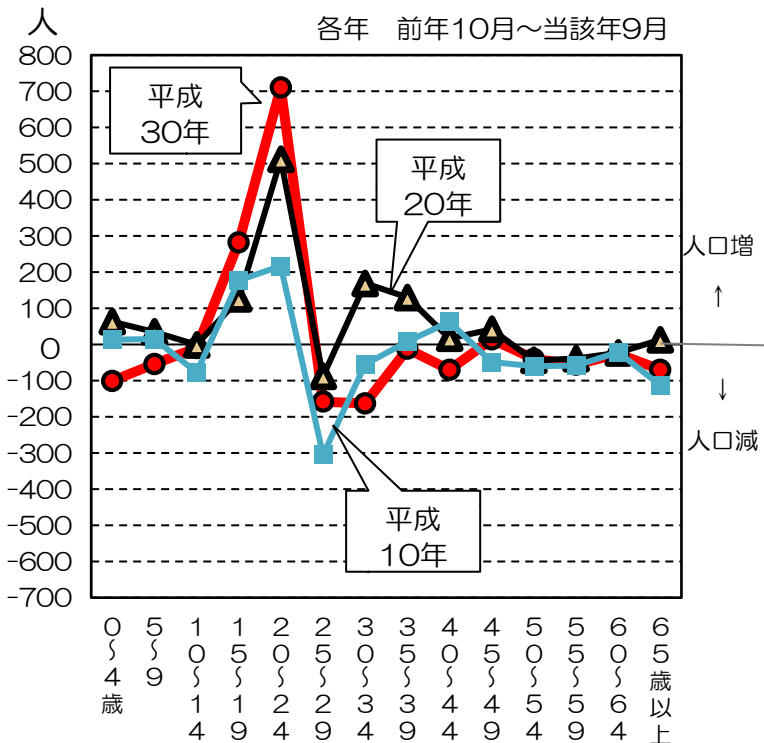


平成29年と平成30年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）をしてみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で大幅な社会増（本区への転入超過）がみられます。

その他の年代をみると、平成29年は社会減であった45～49歳が平成30年には社会増（本区からの転入超過）に転じています。

また、平成29年は社会増であった0～9歳が、平成30年には社会減（本区からの転出超過）に転じています。

図2:年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成10年から平成30年までの10年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられませんが、20～24歳は、平成10年は約200人の社会増でしたが、平成20年、平成30年はそれぞれ約500人、700人の社会増となっています。

また、その他の年代について、平成10年と平成30年を比較すると、全体的に若干の社会増の傾向が見られます。